第４章　取り組みと役割分担

「第４章　取り組みと役割分担」の見方

第１節　福祉サービスを利用しやすい仕組みづくり

『基本目標』

１　情報提供の充実

『取り組みの柱』

（１）福祉サービス情報をわかりやすく伝える

『取り組み』

■現状と課題

◆ **福祉サービスを知る機会の充実が必要との声が多い**
市民ワークショップでは、「困っている人に届くような情報提供が大切」など、分野別課題調査では、「介護や福祉のサービス内容を分かりやすく伝えることが必要」など、福祉サービスを知る機会の充実を求める声が多くありました。

◆ **「広報おごおり」が福祉サービスの貴重な情報源となっている**
市民意識調査では、福祉サービスの情報源として、「広報おごおり」が 56.2%でもっとも高く、市民にとって福祉サービスに関する貴重な情報源となっている様子がうかがえますが、地域包括支援センターなどの相談機関については、低い回答割合となっています。

市民意識調査、分野別課題調査、市民ワークショップなどの結果から、現状と課題を整理しました。さらに詳しい内容は、資料編「調査からみえる現状と課題」に掲載しています。

取り組みの方針

◇ 福祉サービスを必要とする人が必要な情報をいつでも得られるような仕組みづくりを推進します。

◇ 情報の入手が困難な人へのきめ細かい配慮など、分かりやすく情報を提供するための工夫と充実を図ります。

『現状と課題』を改善していくために必要な取り組みの方向性について示しています。

『取り組みの方針』に沿ってすすめていく『具体的な取り組み』と取り組むにあたっての役割分担を示しています。

具体的な取り組み

自分や家族が取り組むこと【自助】	1. 広報紙や回覧板などをよく読み、福祉サービスに関する情報を積極的に確認します。 2. 必要な福祉サービスの情報を周囲に求めます。
身近なつきあいで取り組むこと【互助】	3. 困りごとが生じた場合には、となり近所のなかで、お互いに声をかけ合いながら、支え合い、助け合います。 4. 近所づきあいを大切にし、気軽に相談できる関係を築きます。 5. となり近所で気にかかる人がいる場合には、見守りを心がけます。
地域のみんなが取り組むこと【共助】	6. 福祉サービスに関する出前講座などを地域で開催します。 7. 地域の組織や団体、民生委員・児童委員などによる相談支援活動に努め、福祉サービス情報提供の機会として活用します。
事業所が取り組むこと【共助】	8. 福祉サービス事業所は、必要な福祉サービスなどに関する情報を利用者やその家族に対し、十分に説明します。 9. 福祉サービス事業所では、地域の人たちにサービス内容を理解してもらうため、施設見学などを積極的に開催します。
社会福祉協議会が取り組むこと【共助】	10. 虐待問題について、人権擁護の視点からの啓発を図っていきます。 11. 高齢者や子ども、障害のある人に対する虐待問題について、学ぶ機会の充実を図ります。
行政が取り組むこと【公助】	12. 地域の団体、学校、事業所などをとおし、あらゆる機会を活用して、福祉サービスや制度の周知に努めます。 13. 地域包括支援センターなど、福祉サービスに関する情報提供や専門的な相談に応じる窓口の周知を図ります。

【自助】
自分自身や家族が協力しながら取り組む内容を示しています。

【互助】
となり近所などの身近なつきあいのなかで取り組む内容を示しています。

【共助】
地域でくらす人たち、地域の事業所、社会福祉協議会の取り組み内容を示しています。共助の取り組みは、行政も地域と協働してすすめていきます。

【公助】
市役所の関係課がすすめること、行政でないと対応が難しい取り組みを示しています。